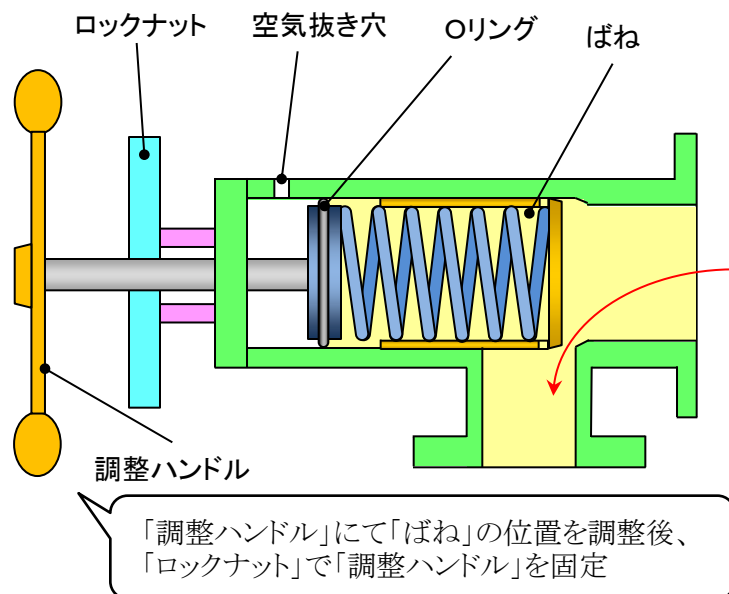


東通原子力発電所1号機における非常用ディーゼル発電機(A)からの軽油漏えい事象発生の原因

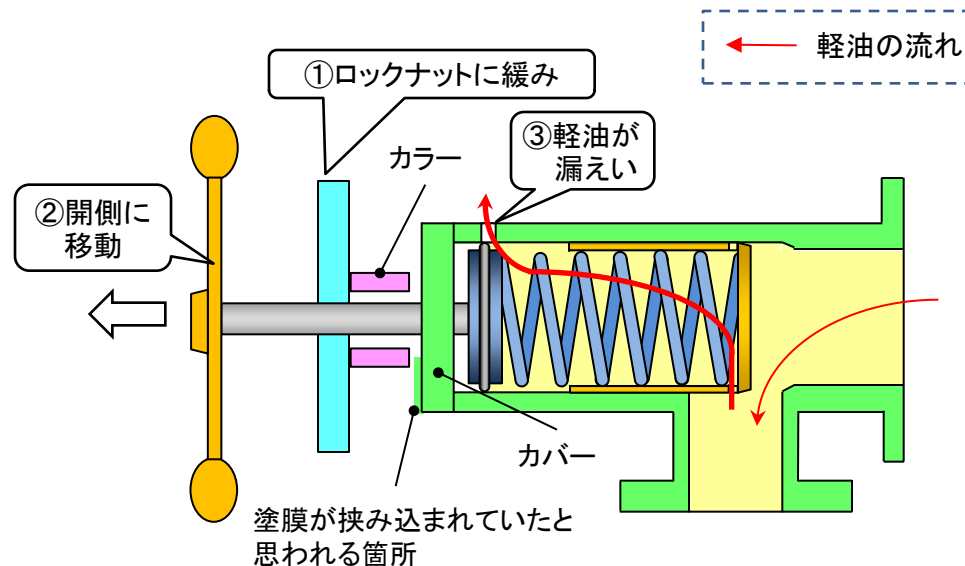
【概要】

- 外観点検および分解点検を行った結果、調整ハンドルの位置を固定する「①ロックナットが緩み」、「②調整ハンドルが適正な位置から開側に移動」したことにより、当該弁内のOリングが所定の位置からずれて空気抜き穴の位置に達していることを確認。これにより、「③軽油が空気抜き穴から漏えい」したものと推定。
- また、調整ハンドル位置を固定するロックナットが緩んだ原因は、ロックナットの適切な締め付け管理ができていなかったことや、当該弁の構成部位であるカラーとカバーの接触面に、カバーの塗膜を挟み込むなど、ロックナットの締め付けが不十分な状態で、非常用ディーゼル発電機（A）の運転による振動が作用したものと推定。

[適正な状態]



[今回の状態]



[補足]圧力調整弁の役割

- ・「ばね」の力により、系統内の油圧を安定させる。
- ・非常用ディーゼル発電機点検後の油張り時に、「調整ハンドル」を緩め、「空気抜き穴」から配管内の空気を抜くことで、系統内を油で満たす。
(空気抜き実施後は、「調整ハンドル」を元の位置に戻し、「ロックナット」で「調整ハンドル」を固定)